平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607380		
法人名	社会福祉法人　柏仁会		
事業所名	グループホーム　ありす刈和野　(けやき)		
所在地	秋田県大仙市刈和野字愛宕下85		
自己評価作成日	平成30年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成30年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

奥羽本線刈和野駅より徒歩5分ほどの街の中心部にあり、木をふんだんに使ったぬくもりある明るく開放的な建物になってます。昔からの商店街、スーパー、金融機関、病院などが徒歩圏内にあり地域の生活を身近に感じることができます。平成27年4月1日に複合施設として開所し、平成28年には1ユニット9床が増床となり2ユニット18床(けやき棟・かえで棟)での運営体制となりました。春、秋のドライブ、地域のお祭り、文化祭、柏の郷夏祭りなどに参加し地域の方々との交流を大切にしております。多目的ホールでは障害者も高齢者も一緒に施設行事を楽しみ、利用者様が笑顔多く過ごしていただけるように行事企画に工夫を凝らしています。運営推進会議にも地域の方々、家族様に積極的に参加していただき、充実した会議が実施されています。利用者様、ご家族様との信頼関係を深め安心した生活が出来るように支援しています。

地域の中学校のブラスバンドが訪問し、演奏してくれたり、町内会より提供された灯籠に紙を貼り、絵を描くことで、灯籠流しを継続できるよう地域に貢献する等地域との交流に積極的である。ホームのカウンターを利用し、職人が目の前で寿司を握ってくれたり、かつての生活習慣を重要視する観点から、週に2日の休肝日以外は、少量ではあるものの晩酌が可能であるとは羨ましい。浴槽の湯は、一人利用する毎に交換しており、湯温も入浴剤も利用者個々の好みに合わせている実情には驚かされる。「職員が明るく元気で、利用者がホームという家族の一員として、ひとり一人の違いに合わせた支援。ひとり一人の生活歴を把握することで個々に話題を提供できる。ゆったりとした時間の中で、スタッフと会話を楽しんだり、簡単でも出来る事を行うことです。」との管理者の言葉が印象的である。「このホームに来たら、表情が穏やかになった」「いつも明るく元気いっぱいに挨拶してくれる」「本人や家族の状況に応じて対応してくれる」と家族から喜ばれている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が「自立と共生」の理念に基づき、利用者様の生活が充実できるように実践している。	法人の理念とは別に、福祉エリア(複合施設)ありす刈和野の理念「自立と共生」を設定しており、いつでも確認できるよう、職員の目につきやすい場所に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校のボランティアの受け入れや、地域行事への参加、近所への買い物に出かけ交流している。毎年行う、ふるさと西仙まつりの灯篭作りも協力し地域との繋がりを大切にしている。	8月には地域の中学校のブラスバンドの訪問があり、演奏してくれている。刈和野保育園園児の作品が気に入り、ホーム内に是非掲示したいとお願いしたという園児の小さな手形がいっぱい散りばめられた作品が廊下に掲示されていた。施設では、地元中学生が利用者と一緒に趣味活動を体験したり、トイレや手すり等の消毒作業体験を提供している。灯籠流しの担い手が減る中、町内会より提供された灯籠に紙を貼り、絵を描くことで、地域に貢献している。多くのボランティアを出来る限り受け入れ、ホーム自らも地域に貢献しようとする姿勢が感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を設置し、地域の相談窓口として受け入れたり、運営推進会議の際にも地域の方に認知症の理解や支援を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催し、包括支援センター・家族・地域住民代表の方々も積極的に参加していただき意見・要望を話し合っている。	全家族にホームでの利用者の活動内容を紹介した方がよいのでは、との委員からのアドバイスを受け、早速活動内容を全家族に郵送することで、よりホームの理解促進につながったとのこと。	ほんのつかの間でも、運営推進会議に顔を出した利用者は、その方なりに参加していると判断し、出席者欄に記録するよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事務所主催の研修にも参加し、電話などでも相談しながら利用者の支援に取り組んでいる。	地域包括支援センターとの連携はもちろんのこと、生活保護担当者ともホーム利用の可否について、連携を密にしているとのこと。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、また運営推進鍵でも議題に取り入れ全職員が正しく理解し取り組んでいる。	運営推進会議で身体拘束廃止について議題に取り上げ、委員に具体的に説明し、ホームの現状を紹介したり、全職員に身体拘束廃止に向けたホームとしての意向を研修の中で周知している。今まで対象となる事例はないとのこと。身体拘束廃止に向けたマニュアルや様式も確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について施設内研修を行い、職員が目につく所に虐待についての貼り紙で注意、喚起し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内でも勉強会を行い制度を理解し関連機関の協力を得られるように連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際には、十分に説明し文書にて確認を行っている。入居の際には、意見、要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し家族・利用者様より意見、要望をいただくようにしている。意見要望があった時は職員会議等で公表し改善できるように取り組むようにしている。	挨拶には特に力を入れているとの管理者の言葉通り、スタッフはもちろんのこと、玄関事務所の方も、いつも明るく元気いっぱいに挨拶しているとのこと。本人や家族の状況に応じて対応してくれ、家族にも優しく接してくれていることが伺え、相談や話がしやすいホームである。「このホームに来たら、本人の表情が穏やかになった。重い足取りで面会に行っても、帰りは沢山の元気をいただいて来る。」と家族から感謝されている。ありす刈和野だよりには、新任スタッフの顔写真と紹介記事が大きく取り上げられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回、調整会議を週に1回開催し日常業務の中で意見や提案がある場合は随時職員の意見が述べられるように取り組んでいる。	ホームスタッフは常に何でも言える間柄であるとのこと。定期的に各部門からの意見や要望、気づき、あるいは行事への協力要請や研修内容等について調整している。	法人としてスタッフ1名の補充の必要性を理解し、募集してきたが応募者の無い状況にある。今後とも継続し取り組むよう期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意見や要望を述べれるようにし個人面談を行っている。。また、施設内でコンプライアンス研修を行い職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、働きながら資格を取得できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの施設見学を受け入れ情報交換、交流する機会を作りサービスの質の向上をしていく取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供開始前に本人の訴えを傾聴し、職員でケアの方向性を話し合い本人が望む生活が出来るように信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事、不安なことを聴き家族も安心できる生活が送れるような関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは協力していただき、信頼関係を築けるように努め、支援している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等で本人の様子を伝え、家族の繋がりも支援に結びつけられるように関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人からの情報より、本人の習慣や大切にしてきた繋がり、馴染みの環境、人間関係が継続できるように誰で施設に訪問できるように配慮している。	地域の医療機関が目と鼻の先にあり、通院に来た住民が、面会に来てはお茶を楽しんでいくとのこと。なじみの店で毎月本を購入する方は、散歩コースにある図書館も利用している。以前から通っていた近くのスーパー店員と今も馴染みの関係が継続している利用者の例も確認できた。通院の帰りに本人の希望の店等へあえて立ち寄るよう配慮している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中は居間で過ごしており、利用者同士が常に関わりを持っている。利用者どおしで声を掛け合い洗濯物たたみ、食器拭きを行い助け合っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも経過をフォローし、いつでも家族の相談ごとには応じることを伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認、その人らしい生活の支援に努めている。	「職員が明るく元気で、利用者がホームという家族の一員として、一人ひとりの違いに合わせた支援。一人ひとりの生活歴を把握することで個々に話題を提供できる。ゆったりとした時間の中で、スタッフと会話を楽しんだり、簡単でも出来る事を行うことです。」との管理者の言葉が印象的である。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、利用者さんとの会話の中で情報収集に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り記録から情報を共有し一人ひとりの現状の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に、本人、家族からの意見・要望を伺い、関係職員と話し合い意見交換行っている。本人の意向に近づけた介護計画書を作成している。	スタッフ一人あたり2人～3人の担当制を導入しており、担当利用者についての状況の変化や課題・ケアのあり方について、まとめており、その結果を踏まえて、話し合い、ケアマネジャーである管理者が介護計画を作成している。「相談や話がしやすい。ルールありきではなく、本人や家族の状況に応じた対応をしてくれる。楽しそうに活動している。」と家族から好評である。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し職員で情報を共有している。担当職員が毎月モニタリングで介護計画に沿ったケアが出来ているか確認し連絡ノートを活用し情報の共有を行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店やスーパーでの買い物、公民館、図書館を利用し地域での生活を楽しめるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医院の定期受診・基本検診・予防接種など行っている。状況に応じては電話で相談したり、薬局からは薬についての説明も受けてる。	目と鼻の先に内科と歯科の協力医療機関があり、いつでも連絡でき、場合によっては医師が駆けつけてくれることもある。通院付き添いは基本的にはスタッフが行うが、離れた医療機関には家族が同行する場合もある。かかりつけ医の選択は本人や家族の意向を最大限重視するとのこと。近くの薬局とは互いに顔の見える関係を維持している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が毎日、バイタル測定や利用者の健康状態を観察行っている。日常の関わりの中でも変化や気づきを看護師に報告、相談し医療との連携が迅速にとれるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院関係者と情報交換し、家族と連絡をとりながら早期退院できるように支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は早い段階から家族・本人と話し合い、医療関係者、施設との連絡を密にチームで取り組めるように務めている。	ターミナルケアは実施しない方針であるが、寝たきりで、このホームでしか生活できないような特別の事情であれば、家族や担当医師と連携し、看取った事例を確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡の確認や手順は何度も確認し実践力も身につけている。救命救急研修も行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は地域住民、地域の消防団の協力を得られるようにしている。日中、夜間想定の避難訓練を実施している。	近隣の民生委員が「かけつけ隊」として、スタッフ同様に避難時の介助を行えるまでに訓練を重ねていることが、避難訓練時の記録写真から推測できた。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重しプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	教育研修委員会が設置され、年間9項目に及ぶ研修が実施されており、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、徹底されていることが、研修記録からも確認できた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でも、想いや希望を尋ね自己決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や生活のペースを尊重し希望に添える生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みや、拘りを知りおしゃれを楽しめるように支援している。定期的に理容師が来て整容を整えている。また、馴染みの美容室へ出かけることもある。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房での一括調理になっているが、月1回の給食会議で利用者さんの食事の感想や要望を伝えている。食前のテーブル拭き、食後の後片付けは職員と一緒に利用者も行っている。	かつての生活習慣を重要視する観点から、週に2日の休肝日以外は、少量ではあるものの晩酌が可能であるとは羨ましい。ホームのカウンターを利用し、職人が目の前で寿司を握ってくれ、喜ばれている。給食会議では彩りや硬さ、好みや行事食の希望等、利用者からの様々な要望を精査し、給食の業務委託先に伝えている。お盆拭き、食器拭き等、利用者の出来ることを理解し、その人なりに参加できるよう配慮している。毎月の誕生会には、おやつとしてショートケーキに舌鼓。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養チェック表に毎日食事・水分摂取量を記入し、一人ひとりの好みや状態を把握し必要量が満たされるように支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の清潔を保つように嗽、歯磨きを行い、就寝前には入れ歯を消毒している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の声かけ誘導、ポータブルトイレの使用で自立に向けた支援を行っている。	24時間、全利用者の詳細を観察し、チェック表に記載しており、排泄パターンを把握することで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間トイレまで間に合わない場合のみポータブルを使用する場合もある。退院し入居した場合は、最大限トイレに誘導することで、排泄の自立につながる事例が多いとのこと。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、乳飲料、オリゴ糖等を食事や飲み物に取り入れている。また、運動不足にならないように体操や散歩を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、健康状態を確認し本人の希望に沿った入浴を楽しめるように支援をしている。入浴剤の使用でリラックス効果もできるように工夫をしている。	浴槽の湯は、一人利用する毎に交換しており、湯温も入浴剤も利用者個々の好みに合わせている実情には驚かされる。希望があれば気の合う者同士が一緒に入浴することも可能。前回の外部評価結果にホーム独自にシャワーチェアーの導入を掲げたが、危険を回避し、余裕をもって入浴できるようにと、この6月に導入されたことが確認できた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間の把握、室温、湿度、照明、寝具の好みに合わせ安眠、休息にむけた支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬はファイルし職員がいつでも見られるようにしている。処方変更になったときは記録に残し、副作用や変化について医療関係者に連絡するように努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し本人の能力に応じた趣味活動、レクリェーションで日々の生活が楽しめるように努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人や地域の行事に参加したり個別の外出にも対応している。春、秋のドライブや買い物、外食も支援している。家族の協力で温泉などに出かけられている。	花見、西仙北ぬく森温泉ユメリア、買い物等に出かけている。お盆には2泊3日で帰省したり、家族と散歩や買い物に出かける事例も確認できた。通院の帰りにドライブがてら買い物をし、アイスクリームを食べてくるとか。ホーム周辺に散歩コースがあり、天気と相談し、出かけては近所の方に挨拶するとのこと。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で管理しているが自己管理できる範囲の金額を所持している方もいる。移動パン屋、スーパーや産地直売所での買い物を楽しめるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話ができるように支援している。年賀状、手紙の通信支援も行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔に保たれ花や季節の飾り飾りつけで四季を感じられるように工夫をしている。	就労支援事業所である多機能事業所ありす刈和野に、廊下やトイレの清掃業務を委託しており、当日も黙々と清掃業務にいそしむ姿が確認できた。外来者である我々に対する応対の仕方が非常に好印象である。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファではいつも利用者がくつろげるようにソファの位置や利用者の席に配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で好んで使用したものや愛用の家具の持ち込みで安心で居心地良く過ごせるように工夫をしている。	各居室の壁に掲示板が設置されており、家族の写真やお祝いのメッセージ等に配慮した結果であると聞き、なるほどと頷かされた。ホーム全体が高級ホテルのような雰囲気を感じさせ、建物が新しく快適であると家族から好評である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カーテンの開閉、日めくりカレンダー交換、プランターの水やり等、役割を持って生活できるように支援している。		